

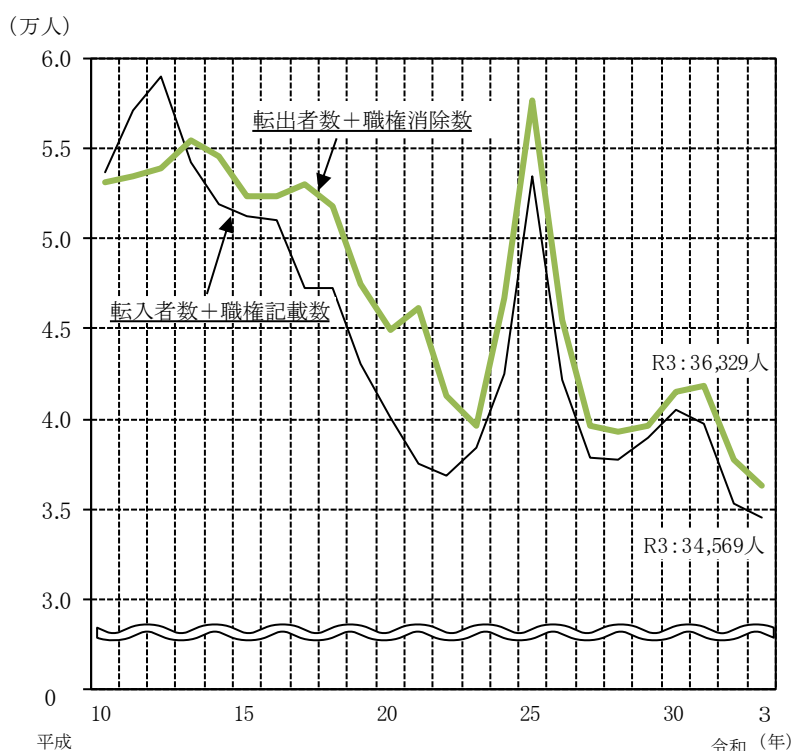
4 社会動態

令和3年中の社会動態をみると、県外(国外を含む)からの転入者数は33,259人で前年に比べ428人減少し、県外(国外を含む)への転出者数は34,588人で前年に比べ847人減少となりました。この結果、届出者数でみると、転出者が転入者を1,329人上回り、転出超過となりました。

このほか、その他増減(職権による記載、消除)により431人減少し、これを加えた社会動態は1,760人の減少となっています。

図8では、届出のあった転出入者にその他増減を加味した数値を示していますが、平成13年からは21年連続して社会減となっています。(図8、5ページ 表2)

図8 社会動態の推移

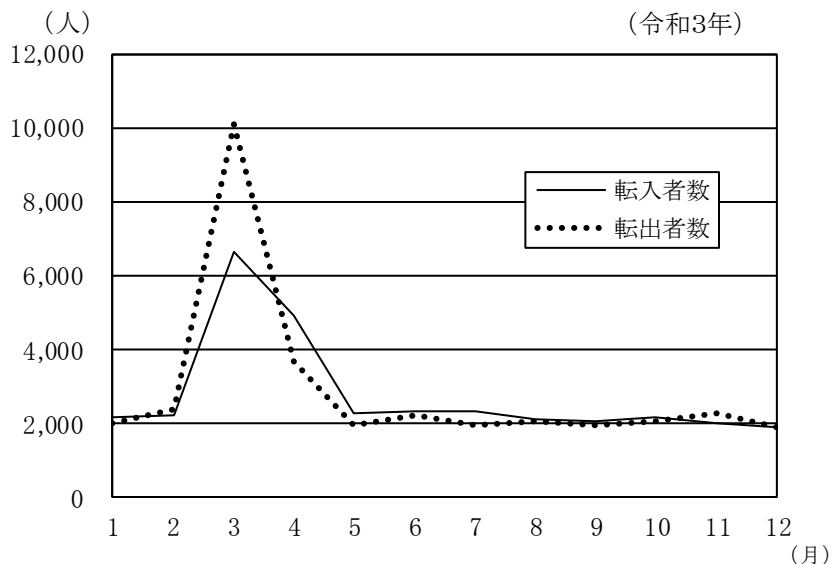


3月は転出超過、4月は転入超過

令和3年の各月の社会動態をみると、就学や就労等による異動が多い3月と4月にかけて、転入者数、転出者数がともに多くなっています。(図9)

また、4月以降は、転入者数が転出者数を上回る転入超過が7か月続きました。

図9 月別社会動態(転入－転出)



社会増加 27市町村 社会減少 49市町村 増減なし 1村

社会動態を市町村別にみると、27市町村で社会増加、49市町村で社会減少となっています。

社会増減率が最も高いのは、根羽村の2.13%で、以下、御代田町1.62%、軽井沢町1.51%の順となっています。一方、最も低いのは、北相木村の△2.71%で、以下、川上村△2.40%、南牧村△2.04%の順となっています。(6ページ 表3)

転入者数、転出者数ともに東京都が最も多い

転入者の従前地をみると、東京都が20.8%で最も多く、次いで神奈川県が9.1%、以下、埼玉県、愛知県、国外、千葉県の順になっています。

転出者の転出先をみると、東京都が20.7%で最も多く、次に神奈川県が9.5%、以下、国外、埼玉県、愛知県、千葉県の順になっています。従前地の43.6%、転出先の43.4%が東京圏となっています。（表6）

表6 都道府県別移動者割合（令和3年）

順位	転入者			転出者		
	従前地	総数(人)	構成比(%)	転出先	総数(人)	構成比(%)
1	東京都	6,926	20.8	東京都	7,157	20.7
2	神奈川県	3,025	9.1	神奈川県	3,272	9.5
3	埼玉県	2,766	8.3	国外	2,957	8.5
4	愛知県	2,572	7.7	埼玉県	2,880	8.3
5	国外	2,184	6.6	愛知県	2,750	8.0
6	千葉県	1,769	5.3	千葉県	1,707	4.9
7	新潟県	1,129	3.4	群馬県	1,356	3.9
8	群馬県	1,071	3.2	新潟県	1,188	3.4
9	静岡県	1,070	3.2	大阪府	996	2.9
-	その他	10,747	32.3	その他	10,325	29.9
-	合計	33,259	100.0	合計	34,588	100.0

転入者数、転出者数ともに20歳～24歳が最も多い

表7 年齢5歳階級別社会動態（県外移動）

（令和3年）

年齢5歳階級別の転入者数をみると、20～24歳が6,140人(18.5%)で最も多く、次いで25～29歳6,118人(18.4%)、30～34歳4,031人(12.1%)の順となっています。

転出者数は、20～24歳が9,381人(27.1%)で最も多く、次いで25～29歳6,526人(18.9%)、30～34歳3,645人(10.5%)の順となっています。

増減をみると、転入超過は35～39歳が588人で最も多く、以下0～4歳516人、40～44歳425人の順となっています。

一方、転出超過は20～24歳が3,241人で最も多く、以下15～19歳1,845人、25～29歳408人の順となっています。

（表7）

年齢階級 (歳)	転入者数		転出者数		増減 a-b (人)
	a (人)	構成比(%)	b (人)	構成比(%)	
0～4	1,765	5.3	1,249	3.6	516
5～9	986	3.0	741	2.1	245
10～14	529	1.6	515	1.5	14
15～19	1,253	3.8	3,098	9.0	△ 1,845
うち18～19	1,041	3.1	2,800	8.1	△ 1,759
20～24	6,140	18.5	9,381	27.1	△ 3,241
25～29	6,118	18.4	6,526	18.9	△ 408
30～34	4,031	12.1	3,645	10.5	386
35～39	2,892	8.7	2,304	6.7	588
40～44	2,143	6.4	1,718	5.0	425
45～49	1,772	5.3	1,509	4.4	263
50～54	1,529	4.6	1,202	3.5	327
55～59	1,121	3.4	759	2.2	362
60～64	909	2.7	511	1.5	398
65～69	627	1.9	362	1.0	265
70～74	508	1.5	322	0.9	186
75～79	332	1.0	216	0.6	116
80以上	604	1.8	530	1.5	74
計	33,259	100.0	34,588	100.0	△ 1,329

表8 年齢5歳階級別社会動態(県外移動・男女別)

(令和3年)

20～24歳の女性の転出超過が最も多い

年齢5歳階級別の社会動態を男女別にみると、転入者数、転出者数ともに男性が多くなっています。

一方で、増減をみると、男性の△276 人に対して、女性が△1,053 人となっており、女性の転出超過数が大きくなっています。

15～19 歳、20～24 歳、25～29 歳の3区分については、男女ともに転出超過となっていますが、特に、20～24 歳の女性の転出超過が 1,921 人で最も多くなっています。

(表8)

年齢階級 (歳)	転入者数(人)		転出者数(人)		増減(人)	
	男	女	男	女	男	女
0～4	894	871	637	612	257	259
5～9	504	482	394	347	110	135
10～14	275	254	260	255	15	△ 1
15～19	773	480	1,641	1,457	△ 868	△ 977
うち18～19	650	391	1,482	1,318	△ 832	△ 927
20～24	3,616	2,524	4,936	4,445	△ 1,320	△ 1,921
25～29	3,573	2,545	3,866	2,660	△ 293	△ 115
30～34	2,344	1,687	2,134	1,511	210	176
35～39	1,610	1,282	1,346	958	264	324
40～44	1,253	890	998	720	255	170
45～49	1,043	729	934	575	109	154
50～54	930	599	752	450	178	149
55～59	688	433	468	291	220	142
60～64	534	375	319	192	215	183
65～69	368	259	179	183	189	76
70～74	269	239	151	171	118	68
75～79	153	179	115	101	38	78
80以上	210	394	183	347	27	47
計	19,037	14,222	19,313	15,275	△ 276	△ 1,053